

## 高齢者のスポーツに関する調査研究

—— グラウンド・ゴルフ愛好者を対象として ——

佐橋 由美 (樟蔭女子短期大学)

高齢者のスポーツ, ニュー・スポーツ, 価値意識

### 1. はじめに

今日、生涯学習の理念が浸透を見せ、学校体育においては、生涯にわたってスポーツを楽しむ態度と基礎的能力の育成が目標の一つとして掲げられ、生涯スポーツの基礎づくりがめざされる一方、これまでスポーツ活動に積極的でなかった階層（高齢者・主婦など）への働きかけが重要な課題となってきた。

一般に高齢者は、健康や体力づくり的な運動を除いて、いわゆるスポーツ活動からは遠ざかる傾向にある<sup>1)</sup>。加齢による体力面の限界意識や、社会生活からの“引退者”意識がスポーツ活動への参加を躊躇させる原因となっていることが推察される。また、既存のスポーツの多くは、運動量が多く、ゲームを楽しむためにはある程度の技術水準に達していることが前提となる。一般の高齢者にとって、これらのことは、参加の抑制要因として働く可能性が高いと思われる。このようなことから、どの年齢層も一様に既存のスポーツ活動への参加を促すというこれまでの普及策には限界があると考えなければならない。「スポーツに人間をあてはめるのではなく、人間にスポーツをあてはめる<sup>2)</sup>」という発想の転換が求められている。

グラウンド・ゴルフは、文部省による『生涯スポーツ推進事業』（昭和57年度より）の補助を受けた、高齢者のスポーツ・プログラム開発研究の中から生まれたものである。その他のニュー・スポーツと同様に、“いつでも、どこでも、だれでも楽しめる”という手軽さとレクリエーション志向が特徴となっている。行政主導の普及策が効を奏してか、ここ数年、とくに高齢者の間で愛好者数を急激に増やしている。

ところで、スポーツ活動への参加は、活動時の客体的条件と、主体の運動・スポーツに対する欲求に規定されるといわれている<sup>3)</sup>。この欲求と深く関連し、持続的に行動の方向性を決定するのが運動・スポーツに対する個々人の価値意識である<sup>4)</sup>。高齢者がスポーツに対してどのような考えを持っているのかを解明することは、これからの高齢者スポーツのあり方を考える上での基礎資料となると思われる。

### 2. 研究の目的

- ①運動・スポーツに対する高齢者の価値意識を明らかにすること。
- ②GGの活動の実態や、活動への参加意欲、継続意欲などをみることによって、GGが高齢者のスポーツ欲求を満たすものであるかどうかの検討を試みる。

### 3. 研究の方法

調査対象：東海四県グラウンド・ゴルフ交歓大会参加者（60歳以上<sup>5)</sup>）。比較対象として、60歳未満の同大会参加者並びに、兵庫県内の4年制大学1回生（72名）。

調査期日：平成3年7月13日、14日。大学生については、6月29日。

調査方法：GG交歓大会参加者に大会当日質問紙による調査を行った。300部の調査票配布に対し、有効回答は213（71%）。内、70歳以上は35名、60～69歳は85名。

調査内容：I ①過去の運動・スポーツ経験 ②現在の健康状態 ③自由時間の過ごし方 ④運動・スポーツに対する価値意識 II ①GGの活動状況（実態） ②GGの長所 ③GG継続の障害となる要因 ④継続意欲、など。

分析方法：単純集計、クロス集計（年齢を軸として）。

#### 4. 結果の概要と考察

##### (1)自由時間の過ごし方と日常生活における運動・スポーツ活動の位置

今回の調査では、余暇におけるスポーツ活動の占める割合は高いことが示された。70歳以上では、1位が園芸(40.0%)、2位がスポーツ(37.1%)、60代では、スポーツ(34.1%)が1位、園芸(32.9%)が2位であった(2項目の選択)。

##### (2)運動・スポーツに対する価値意識

①運動・スポーツに対する価値意識を見るために、「運動やスポーツについての次の意見(考え)の中からあなたの考えに特に近いと思われるものを5つ選択して下さい」という質問を行い、さらに、その5項目の中で、重視する度合いの強いものから、順位をつけてもらった。それを質問項目ごとに得点化した結果の一部が図1-1、図1-2である。

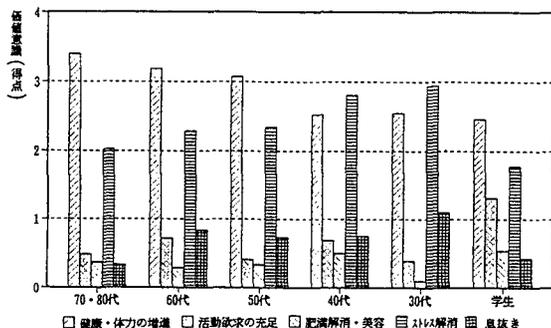


図1-1. 年代別運動・スポーツに対する価値意識(身体的・生理的側面)

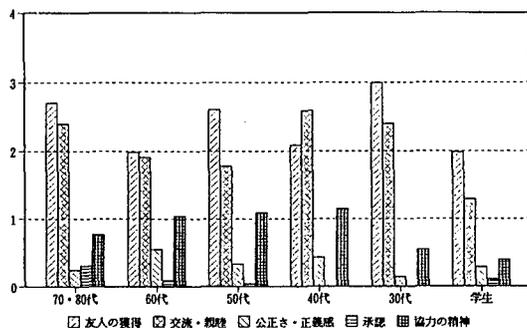


図1-2. 年代別運動・スポーツに対する価値意識(社会的側面)

容認度の高い項目は、「健康・体力の増進」「ストレスの解消」「友人の獲得」「親睦・交流」であり、運動・スポーツの「身体的・生理的価値側面」、「社会的価値側面」を評価している。一方、「自己実現的価値側面」の評価の度合いは極めて低い。他の年齢層と比較してみると、大学生においてかなり異なった反応がみられたものの、年齢段階によって価値意識に顕著な差は認められなかった。

②実際にGGを行う場合には、どのようなことを重視するのかについて、6項目の順位づけをしてもらった結果、「技術の向上」や「ゲームの勝敗」などは、どの年齢層においても重視されていない。また、70歳以上の高齢者では、「健康・体力の増進」を最も重視するという結果が得られ、スポーツ一般に対する価値意識とも考えあわせると、高齢者の関心は、スポーツを通じて健康を維持することに向いているといつてよい。このことは、「健康の維持努力」の質問項目において、年齢が上がるにつれて努力の度合いが高まるという傾向(P<0.001)が認められたことと呼応している。

##### (3)運動・スポーツ活動の実施状況

GGの活動の頻度をみると、高齢になればなるほど活動頻度は高くなる傾向が認められた(P<0.001)。これに対して、GG以外のスポーツの実施率は、年齢層が下がるにつれ、高まる傾向が認められた(P<0.01)。

##### (4)スポーツ活動への参加意欲、継続意欲

スポーツ活動への参加意欲ならびに継続意欲を以下の4項目：①「講習会への参加」②「全国大会への出場」③「GG以外のスポーツ活動への参加」④「GGの継続」によって把握しようと試みた結果、①④については、年齢が上がるにつれ、意欲が高まる傾向が認められ、③については、逆に若年齢層の方が意欲が高いという傾向が明らかになった。